

CASBEE[®]-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)白河市複合施設	階数	地上3F
建設地	福島県白河市	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域指定なし	平均居住人員	789 人
地域区分	4地域	年間使用時間	4,847 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年3月 予定	評価の実施日	2024年10月1日
敷地面積	5,360 m ²	作成者	林義尚
建築面積	4,908 m ²	確認日	2024年10月1日
延床面積	5,912 m ²	確認者	三井透江

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE =1.9

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★

環境品質 G (0-100) vs 環境負荷 L (0-100). BEE=1.9 is highlighted in the A+ region.

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%
②建築物の取組み 52%
③上記+②以外の 52%
④上記+ 52%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂ 排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q1 室内環境: 3.1
Q2 サービス性能: 3.4
Q3 室外環境(敷地内): 3.0
LR1 エネルギー: 4.4
LR2 資源・マテリアル: 3.6
LR3 敷地外環境: 3.4

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.4

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 3.0

LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア=3.4

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
白河市では「健康増進」「子育て支援」「生きがいがづくり」の機能を有する複合施設を白河市の中心地にある市役所に隣接して建設することを決定した。一部に民間機能を導入するなど官民連携を図るほか、市民や職員に利用しやすい動線で市役所庁舎と一体的に連携できる機能配置を行う。敷地に沿って隣接する谷津田川がゆるく湾曲する様子から、広場を円弧状に取り囲む平面を採用し、広場と一体となった市民の交流拠点を構築する。		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
外壁面開口部にはLow-e複層ガラスを採用し、断熱材厚さを確保することで、熱負荷低減をはかっている。また、大空間となる吹抜・共用部は床吹出し空調、照明はLEDを採用し、光環境・温熱環境を最適なものとしている。	非常時の施設運営継続性に配慮し、非常用発電機を採用。変電設備は屋上に設置し、クレーンにて容易に更新可能な計画としている。階高は、4.2m以上確保し、広がりのある空間を確保している。	市の植生を考慮した植栽計画、市内のシンボルの1つ小峰城(三重櫓)の屋根形状を意識した勾配屋根により、白河市の施設としての景観に配慮している。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
太陽光発電や地中熱を利用した熱源設備、BEMSを導入し、エネルギー消費量を抑え、環境負荷低減を行っている。	リサイクル資材および節水器具を採用している。また、杭コソリットには高炉セメントを使用している。	施設建設による風環境をシミュレーションし、周辺風環境の向上に寄与する計画としている。敷地内の雨水は貯留槽を設置することで、雨水排水の制御を図っている。また、交通負荷抑制のための適切な量の駐輪場、駐車場の設置をしている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

無断転載禁止